

平成 25 年度の都府県における生乳生産コストの動向について

平成 25 年 7 月 1 日
一般社団法人 Jミルク

最近の都府県における生乳生産は、円安の進行及びアジアなどにおける畜産の振興による輸入飼料価格の高止まり等を背景に、従来に増してコスト圧力が高まっている。

したがって、都府県における生乳生産コストの動向について、後述の「価格形成フォーミュラ・変化率算定プログラム」を活用して推計したので、その概要を公表する。

推計に当たっては、公表されている政府統計データを指標として活用して、先ず平成 24 年度の生産費を推計し、これを基礎に平成 25 年度の実績について推計した。

平成 25 年度の推計に当たっては、生産費のほぼ半分を占める流通飼料費については直近の価格動向に置き換え、それ以外の費目は 24 年度と同水準とした。

以上の結果、平成 25 年度の都府県の生乳生産費（全参入生産費）は、搾乳牛 1 頭当たり 886 千円となり、平成 24 年度に比較して 6.2% 上昇すると推計された。（別添のグラフ参照のこと）

参考：「価格形成フォーミュラ・変化率算定プログラム」

生乳の生産費を構成するそれぞれのコストについて、政府が調査・公表する統計等の客観的な価格指標の内から代理変数（活用指標と呼び）を定め、関連データを毎月更新して提供するとともに、その変化動向により直近の実績を自動的に推計する「価格形成フォーミュラ・変化率算定プログラム」も併せ提供している。

「価格形成フォーミュラ・変化率算定プログラム」は、JミルクWEBサイト（酪農乳業情報→データベース→価格形成フォーミュラと変化率算定プログラム）を参照下さい。

<http://www.j-milk.jp/gyokai/database/berohe0000003uud.html>

（以上）

